

韋カ由布佐禮婆ユフサレバカ加是布加牟登曾カゼフカムトゾ許能波佐夜牙流コノハサヤゲル

〔古事記傳二十〕由布佐禮婆は夕去者にて夕になればと云むが如し萬葉に多き詞なり明去ば朝去ば春去ば秋去ば又春去ぬればなごもいひ夕去らば春さらば秋さらばなごもいひ又夕去來れば春去來ればとも春去にけりとも又春去往ともさまぐに云るみな去は其時になる意に云り略註今の俗言に夜を夕さりとも夜さりとも云は此より出たる言なるべし

〔萬葉集十冬雜歌〕詠雪

暮去者衣袖寒之高松之山木毎雪曾零有ユラサレバヨモテササシノマツノヤマキノキゴトニユキゾフリタル

〔空穂物語國讓中〕大將げかうはてかへり給てせちにきこえ給へばそのひのゆふさりつかたなしつばもとぶらひきこえ給はんとてわたり給ぬ

〔伊勢物語下〕昔男有けりその男伊勢の國にかりの使にいきけるにかの伊勢の齋宮なりける人のおや略中あじたにはかりにいだしたてやりゆふさればかへりつそこにこさせけり
〔古今和歌集離別八〕かんなりのつばにめしたりける日略中夕さりまで侍てまかりいで侍けるおりにさかづきをとりて
つらゆき略中歌

〔類聚名義抄二〕日没イリアヒ

〔書言字考節用集二時候〕日没落照又照晚鐘

〔倭訓栞前編三〕いりあひ日没をいふ日の入間だなりよて晚鐘をもしかいへり或は返照をよめり

〔伊勢物語上〕昔わかき男略中けふのいりあひばかりに絶入て又の日のいぬのときはかりになんからうじていき出たりける

〔新古今和歌集二春〕山里にまかりてよみ侍ける